厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
総括分担研究報告書

研究分担者　矢野　雅文（山口大学大学院医学系研究科・教授）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨
本研究班は、1974年に旧厚生省特定疾患調査研究班として、特発性心筋症の疫学・病因・診断・治療を明らかにすべく設立され、その後約40年間継続して本領域での進歩・発展に大きく貢献してきた。本研究は、心筋症の実態を把握し、日本循環器学会、日本心不全学会と連携し診断基準や診療ガイドラインの確立をめざし、研究成果を広く診療へ普及し、医療水準の向上を図ることを目的とした。研究班による全国規模での心筋症のレジストリー、特定疾患登録システムの確立を推進準備し、心筋症をターゲットとした登録観察研究であるサブグループ研究を開始し、登録をすすめた。また、研究成果の社会への還元として、ホームページ公開や市民公開講座を行った

A．研究目的
心室瘤を合併した心サルコイドーシス患者の^{18}F-fluorodeoxglucoseポジトロン断層撮影法(^{18}F-FDG PET/CT)における^{18}F-FDG集積パターンは未だ解明されていない。そこで、心サルコイドーシス患者に合併した心室瘤の^{18}F-FDG集積の特徴について検討した。

B．研究方法
当施設で診断された連続82人の心サルコイドーシス患者を登録した。54人の患者で^{18}F-FDG集積を認め、活動性心サルコイトーシスと診断した。心室瘤を認めた17例を心室瘤合併群（VA群）、心室瘤を認めない37例を心室瘤非合併群（Non-VA群）とし、比較検討した。また、^{18}F-FDG PET/CT画像を再構成し、集積の特徴や集積強度を検討した。

（倫理面への配慮）
患者の名前は匿名化され、そのデータは、名前や個人を特定できないように個人情報の秘密は厳重に守られ、第三者には絶対わからないように配慮してある

C．研究結果
全てのVA群の患者で心室瘤周囲の^{18}F-FDG集積と心室瘤中心部の集積消失がみられ、心室瘤中心部の瘢痕形成によるものと考えられた。Standardized uptake value (SUV) は心室瘤中心部と比較して心室瘤周囲で高値であり（心室瘤周囲; 5.1±2.1 vs 心室瘤中心部; 2.2±0.6, P=0.0003）、心室瘤中心部は正常部位と同等の集積強度であった（正常部位; 2.1±0.6 vs 心室瘤中心部; 2.2±0.6, P=0.37）。一方、左室壁菲薄化を伴ったNon-VA群の患者28例では、左室菲薄化部位でも正常部位と比較して^{18}F-FDG集積が増強していた（正常部位; 2.0±0.6 vs左室菲薄化部位; 3.1±0.8, P=0.00002）。

D．考察
^{18}F-FDG 集積に注意を払うことで心室瘤に対する早期治療や心サルコイドーシスの病態解明につながる可能性が示唆された。

E．結論
心室瘤周囲における^{18}F-FDGの強い集積と心室瘤中心部の集積消失が心室瘤を合併した心サルコイドーシス患者における画像的特徴と考えられた。

F．健康危険情報
なし

G．学会発表
１．論文発表

２．学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）
なし

Nanno T, Kobayashi S, Yoshitomi R, Fujii S, Kajii T, Kohno M, Ishiguchi H, Okuda S, Okada M, Suga K, Yano M. Detection of Active Inflammation Status Around Ventricular Aneurysms in Patients With Cardiac Sarcoidosis. Circ J. 2019 ;83(12):2494-2504. doi: 10.1253/circj.CJ-19-0248.

H．知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）
１．特許取得
なし
２．実用新案登録
なし
３．その他
なし